

サントリー美術館コレクション展 名品ときたま銘品

サントリー美術館(六本木) 24.04.17~06.16

<本展の見どころ>

1. 知られざる秘蔵コレクションを多数出品
2. 国宝・重要文化財も大集合
3. 「メイヒン(名品)」探しをお楽しみいただく展覧会

<展覧会の構成>



第1章 漆工 生活を美で飾る 《椿彫木彩漆笈》

漆工は、日本美術を代表する伝統的な技術であり、精緻で美しい螺細や蒔絵が施された調度品は、主に高貴な人々の生活の場を飾ってきたもので、比類なき完成度の高さゆえ「名品」とされるものも少なくはない。一方で漆工は時代と共に一般庶民にも浸透し生活用品として飲食具を主中心に利用されていた。

第2章 絵画 おおらかな心で愛でる 《おようのあま絵巻》 部分



絵画は、絢爛豪華な「花鳥図屏風」や「風俗屏風」は壮観であり、躍動感溢れる描写は、現代に生きるわれわれの眼にも鮮やかに映る作品である。

本章では、優れた表現で誰もが認める作品はもとより、見る者の心に直接訴えてくる無邪気な作品にいたるまで、多岐にわたる日本絵画を紹介している。

第3章 陶磁 人類最良の友と暮らせ 《能装束 段に流水海松貝模様縫箔》



紅と緑の段に白の縦縞が交差する織物の地に、型紙で文様を糊置きして金箔を載せる摺箔の技法で、水の渦巻くさまを表した観世水(かんぜすい)風の文様が施されている。その地紋の上に、紅、白、黄、紫、青、水色などの色糸で、海藻の海松、巻貝、鮑貝、帆立貝、二枚貝などが精密に刺繍されていて、段と縞の洒落た配色や、左右対称に配された海松の貝類の刺繍だけでも面白い。